

事業計画

整備スケジュール

新病院は、2027年(令和9年)の開院を目標とし事業に取り組んでいきます。なお、今後の新病院の整備手法の検討やその他社会情勢等の影響により、整備スケジュールは適宜見直しを行います。



整備事業費

項目	概算金額(税込)	内容
1. 建築工事費	130.6億円	病院本体・設備、駐車場含む外構工事、設計、工事監理費等
2. 医療機器等整備費	16.3億円	医療機器、什器備品等
3. 医療情報システム等整備費	8.8億円	
4. その他費用	11.2億円	用地取得、土地造成、道路・水路等付替整備、移転、その他費用
合計	166.9億円	

※事業費には解体費、医師宿舍建設費は含まれていません。

収支シミュレーション

開院(2027年度)から6年間は、開院時に調達した医療機器・備品等の減価償却費負担が大きく、厳しい経営状況が続きます。7年目以降はこれらの影響が落ち着き、徐々に安定した黒字で推移していく見通しです。



ご意見の提出方法

所定の用紙に必要事項をご記入の上、郵送などにより提出してください。電話、口頭での受け付けはできません。

- 提出先** 〒399-4117 駒ヶ根市赤穂3230番地 昭和伊南総合病院 新病院建設準備室
- 提出方法** ①郵送 ②持参 ③FAX.0265-82-8230 ④電子メール kensetsu@inan.jp
- 提出締切** 2023(令和5)年1月25日(水) 午後5時15分

お寄せいただいたご意見について

- ご意見は、個別、直接の対応はせず、募集期間終了後、回答を付して公表します。なお、賛否のみを記した意見及び新病院建設基本計画(案)以外の意見については公表いたしません。
- お寄せいただいたご意見は、個人情報を除きそのままの形で公表する場合があります。また、同様の意見は集約することがあります。

お問い合わせ

伊南行政組合 昭和伊南総合病院 新病院建設準備室 TEL.0265-82-2121(代表)

伊南地域にお住いの皆さんへ



伊南行政組合

昭和伊南総合病院

新病院建設基本計画(案)に対するご意見をお寄せください

当院では、2020年(令和2年)8月に策定した「新病院建設基本構想」を踏まえ、新病院の部門計画や施設整備計画、事業収支計画等で構成する基本計画(案)をまとめました。

今回、この「新病院建設基本計画(案)」に対する皆さまからのご意見を募集しますので、ご意見等のある方は以下の方法により提出してください。

- このチラシは概要版です。計画(案)はホームページや閲覧場所でご覧になれます。ホームページ▶http://www.sihp.jp/new_hos.html
- 基本計画(案)の全体版は右のQRコードからご覧ください。▶



募集期間

12月26日(月)~2023(令和5)年1月25日(水) 午後5時15分まで(期間内必着)

提出できる方

- 伊南4市町村(駒ヶ根市、飯島町、中川村、宮田村)に住所を有する人
- 伊南4市町村内在勤、在学者または事業者、各種団体

計画(案)の閲覧場所

昭和伊南総合病院ホームページ
または、昭和伊南総合病院 新病院建設準備室、駒ヶ根市役所地域保健課
飯島町役場健康福祉課、中川村役場保健福祉課、宮田村役場福祉課

意見の提出方法

この概要版の最終ページ下段をご覧ください。



新しい昭和伊南総合病院の整備方針



地域住民の信頼に応える病院

伊南地域の基幹病院として

伊南地域唯一の総合病院として高度急性期~回復期機能及び在宅復帰支援までの切れ目のない医療を提供する地域の基幹病院としての役割を担います。

地域住民の安全安心を守る病院

急性期医療を維持

地域の発生頻度の高い急性期医療の需要に応えます。また救急医療は二次救急を中心に24時間365日の救急対応体制の継続と強化をしていきます。

地域医療を支える病院

地域完結型医療を構築

近隣の医療機関との機能分担や地域との連携を強化することで、地域全体の医療機能を補完した地域完結型の医療体制を構築します。

地域住民の健康の維持・増進を支える病院

健康を守る予防医療を提供

市町村・地域からの需要に応え、健診・検診及び人間ドック等を充実し、地域住民の健康増進や早期発見・早期予防に寄与します。

やりがいを持てる魅力ある病院

人材の確保と育成

医療従事者の教育体制・プログラムを充実し、将来的に地域医療を支える人材の育成に努めます。働きやすい環境を整え、やりがいと誇りの持てる魅力ある病院づくりを目指します。

将来に渡って地域を守り続ける病院

持続可能な医療提供体制 安定した経営基盤の確立

施設規模の最適化を行い、無理無駄のない施設整備を計画します。将来にわたって持続可能な病院経営を行います。

計画 骨子

病床規模

現在稼働病床

239床 ➡ 199床

人口減少や疾病構造の変化、将来の医療需要等に柔軟に対応するため、地域の医療機関等との連携を強化しつつ病床数の最適化を図ります。



病床構成

一般病床 160床 ➡ 125床	ハイケアユニット(HCU) 12床 ➡ 8床	地域包括ケア病床 32床 ➡ 35床	回復期リハビリテーション病床 35床 ➡ 31床
---------------------	---------------------------	-----------------------	-----------------------------

※基本計画段階では、上記の病床構成としますが、今後の受療動向や医療政策等の影響により設計段階で変更する可能性があります。

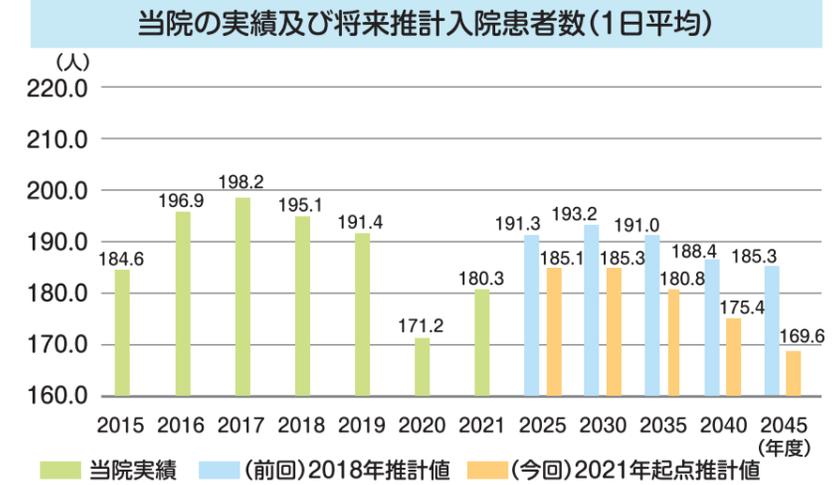
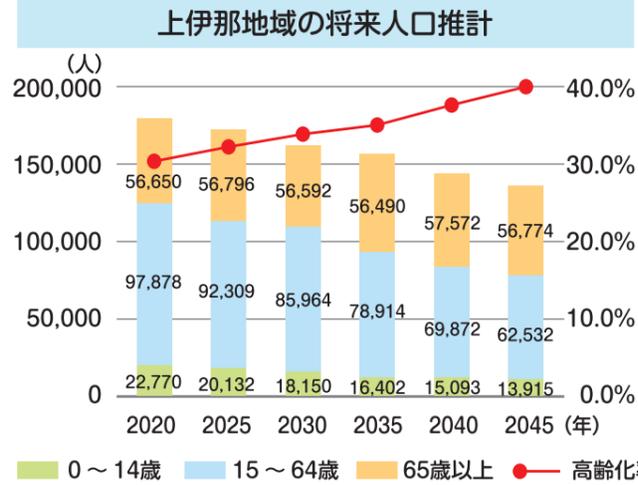
病床規模の設定理由

上伊那地域の将来人口推計によると、既に総人口はピークを過ぎ今後も減少を続けると予測されています。総人口は2020年の177,298人から2045年には133,221人となり、44,077人(約25%)減少します。高齢化率は40%に達します。

一般的に高齢化率が高くなると医療需要が高まりますが、全体人口の減少幅が高いと、全体医療需要も減少していきます。このような地域状況と将来需要を踏まえて、病床規模を設定する必要があります。

基本構想策定段階では、病床数を220床程度としていましたが、新型コロナによる影響等を踏まえ、再度、当院の2025年度以降の将来推計入院患者数を試算しました。その結果、右表のとおり2025年度推計では1日平均185.1人、2030年度は1日平均185.3人とピークを示し、後年度以降は減少していく予測となりました。

試算結果を踏まえ、基本計画では病床規模を199床とします。新病院の病床199床に対する利用率は、2030年度がピークで93.1%(1日平均185.3人)と見込まれます。空き病床は2025年で10床以上、2040年以降で20床以上になると予測され、将来にわたり十分な病床数であると判断します。



重点機能

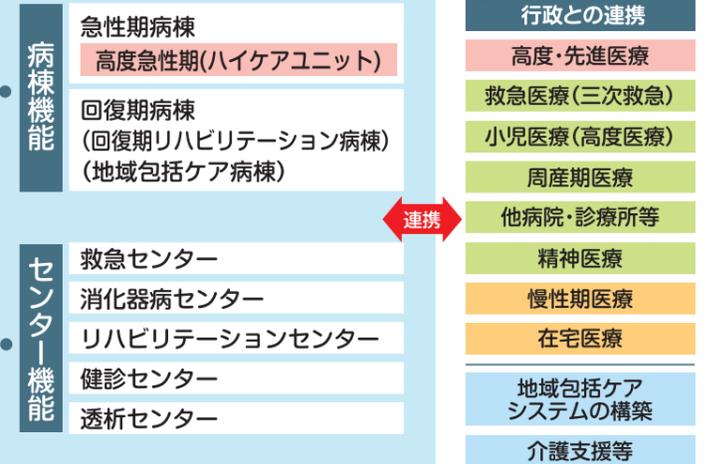
新病院では、引き続き伊南地域における基幹病院として幅広い診療分野に対応可能な機能を整備します。特に、次に掲げる機能については、重点的に維持・強化します。



新病院の機能

標榜診療科 (19科)

内科、循環器内科、消化器内科
脳神経内科、小児科、外科、整形外科
形成外科、脳神経外科、皮膚科
泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科
リハビリテーション科
放射線科、歯科、麻酔科
病理診断科



救急医療・循環器疾患
<ul style="list-style-type: none"> 緊急性の高い循環器疾患(心筋梗塞、脳卒中等)への三次救急対応 地域需要の高い外傷等の整形外科疾患や小児の救急医療の強化・充実
がん医療
<ul style="list-style-type: none"> 発生頻度の高い消化器、呼吸器、乳房及び泌尿器等のがんへの対応 口腔、皮膚及び眼等の希少がんは伊那中央病院や信州大学医学部附属病院等の地域がん診療連携拠点病院と連携

リハビリテーション医療
<ul style="list-style-type: none"> 各疾患の状態に応じた専門的なリハビリテーション医療の提供 回復期のリハビリテーションによるADL向上・機能回復を行うことで患者の早期の在宅復帰・社会復帰を支援
在宅医療
<ul style="list-style-type: none"> 将来的に在宅養老支援病院の取得をめざし、診療所や介護サービス事業所等の在宅医療の提供をサポート

災害医療
<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時に上伊那医療圏南部(伊南地域)において、継続して医療を提供できる体制を構築
新興感染症
<ul style="list-style-type: none"> 新興感染症発生時に上伊那医療圏南部(伊南地域)において他医療機関と連携し、医療を提供できる体制の構築

整備 計画

施設整備方針

- 患者にやさしい施設整備
- 機能的で使いやすい施設整備
- 将来的な変化に対応できる施設整備
- 災害に強い施設整備
- 経済性を考慮した施設整備
- 街づくりを考慮した施設整備

施設規模

- 敷地面積：約36,000㎡
- 延床面積：約18,905㎡
- 駐車台数：約700台
- その他付帯施設：院内保育所、ヘリポートなど



設備計画

新病院建設時の整備に要する初期投資費用を低く抑えるとともに維持管理費用の軽減につながる機器・設備の採用を検討し、コスト面で病院運営に配慮した計画とします。

全室個室化

医療安全、感染管理、プライバシーの保護に配慮した医療環境を整備するとともに、患者負担を考慮しつつ療養環境の向上等、全室個室化を基本に検討します。

災害対策

災害に耐え得るライフライン等の必要な設備や感染症に対応できる施設を整備、大規模災害発生時のトリアージスペースや必要物資の備蓄スペースを整備します。

駐車場

- 来院時等に渋滞が起きにくい配置とします。
- 維持管理費抑制のため平面駐車場を検討します。
- 大規模災害時や感染症流行時におけるトリアージや臨時診療スペースとして活用することも想定します。



建設候補地

下記の条件を踏まえ、現在地を含めた複数箇所の中から実現性・環境性・利便性・経済性の観点で評価し、建設候補地として決定しました。

<建設候補地選定の前提条件>

- 駒ヶ根市内
- 病院が建築可能な面積を有すること
- 交通アクセスが良いこと
- 災害に対する脆弱性が低いこと

